

# 海外研修視察報告書

令和5年12月28日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員 山下 博史  
長崎県議会議員 中村 俊介  
長崎県議会議員 虎島 泰洋

海外研修視察を実施しましたので、つぎのとおり報告いたします。

1 日程 令和5年11月13日～11月15日

2 訪問国 台湾

3 調査目的

- ① コロナ5類後の台湾から本県への誘客の可能性調査
- ② 魚介類を含む県産品の輸出並びに台湾からの物流の可能性調査
- ③ 鄭成功や長崎台湾ゆかりの文化交流促進

4 調査事項

- ① 中華民国対外貿易発展協会役員等へ訪問し、長崎県への誘客や県産品輸出の可能性を調査。
- ② 三三会（台湾エリート企業集団）役員と意見交換し、文化交流の促進と関係構築を深める。

5 調査結果

別添報告書のとおり

6 調査により得られた成果及び県政への反映

別添報告書のとおり

## 海外研修視察報告書

- 視察日 令和5年11月13日～11月15日
- 視察地 1、台湾台北市 台湾貿易センター（中華民国對外貿易發展協會）  
2、台湾台北市 TAIPEI 101（旅奇廣告有限公司）  
3、台湾台北市 三三會
- 視察行程 11月13日（月）福岡空港発 台北入り  
台湾貿易センター（中華民国對外貿易發展協會）  
11月14日（火）  
TAIPEI 101（旅奇廣告有限公司）  
11月15日（水）  
三三會
- 参加者 ① 山下博史県議  
② 中村俊介県議  
③ 虎島泰洋県議

### 1、台湾の概要

台湾は、台湾島の面積が日本の九州よりやや小さく、面積は 36,197 km<sup>2</sup>の国で、2021 年の人口は、約 2,340 万人と発表されている。台湾における宗教は、道教・キリスト教・仏教が特に盛んである。首都は台北市。最大都市は新北市で人口は約 400 万人である。民族は台湾漢民族が 96.6%をしめ、台湾原住民が 2.3%である。公用語は、中国語の一種である「中華民国国語」と呼ばれる言語であり、中国大陸（中華人民共和国）の中国語とは違いがあるが、基本的には言語が通じる。しかし、台湾で最も話されている言葉は、中華民国国語ではなく、「台湾語」と「台湾国語」である。日本の統治時代があったこともあり、高齢者の中には日本語を話せる人もいる。台湾の歴史は世界的にも複雑と言われており、16 世紀以前の台湾島は台湾原住民が住んでおり、17 世紀前半にはスペインとオランダ、1662 年から 1894 年までは、明や清などの中華王朝、1895 年から 1944 年までは、大日本帝国、1945 年以降は中華民国の統治を経て、台湾人はこの歴史の流れから複雑な愛国意識が生まれた。台湾は世界第 19 位の経済規模を有し、2022 年台湾の 1 人当たりの名目 GDP

が初めて日本を超え、東アジアで首位になった。

## 2、中華民国對外貿易發展協會訪問

1970年に海外市場拡大、国際貿易拡大のために設立された団体。王熙蒙秘書長、謝佳芸企劃財務處專員をはじめ役員、日本台湾交流協会の台湾台北事務所の副代表の服部崇様、經濟部主任の有田雄子様にも同席いただく。王秘書長からは、熊本のTSMC企業誘致も、日本側からの熱心な誘致活動と熊本県知事のトップセールスによる高い積極性が評価され実現したとの話があった。今回の台湾訪問の目的の一つに、コロナ5類後の台湾から日本への誘客促進の可能性を調査することであった。本県が、台湾からの観光客が韓国に次いで2位、3位が香港、4位が中国。親日国台湾では訪日先に長崎県を選んでいただける素地（観光地として有名）が有り、しかも、本県はかつて台湾との貿易強化のため貿易公社を持って、しっかり取り組んでいた。そのことから、長崎県としてセールスを強化することで、台湾桃園空港と長崎空港のチャーター便や定期便の運航、台湾の旅行会社による長崎県旅行への企画商品の開発等、さらなる誘客の促進につながる可能性を感じられた。また、訪問目的の一つである、日本の原発処理水放出の影響が水産物や県産品の輸出入にどの程度あるのか確認したところ、王秘書長からは、処理水の放出は台湾でもニュースとして話題になったが、国際ルールに沿った形で日本は放出しているので水産物等への輸出入に影響は全く無い、ご自身も日本の刺身が好きでいつも食べているとの回答があった。このことから台湾への水産物等の県産品の輸出については全く問題ないということが確認できた。

## 3、旅奇廣告有限公司訪問

旅奇廣告有限公司は台湾地域の旅行市場における宣伝・推進活動に30年以上取り組むマーケティング会社である。特に国際マーケティング部・日本チームは10年以上の実務の経験がある。国際市場部劉厚志部長、徐意文企劃主任と意見交換。劉部長は長くハウステンボスで仕事をしていた関係で長崎県のことにも熟知されていた。劉部長から、以前、長崎県は九州でも上位の訪問先だったが、現在は九州でも4位くらいの位置である。理由は、長崎県は歴史的にも古く、観光地も多いし、人気であることは間違いないが、九州他県も、誘客の為にあらゆる努力をしており、他県が頑張っているとのこと。長崎県もセールスをはじめ誘客するための努力をさらにしていくべきとのご意見をいただく。長崎県側として、平戸市と鄭成功をはじめとする長崎台湾ゆかりの文化交流促進について、ターゲットを見据えた効果的な手段を用いての宣伝広報をお願いした。

#### 4、三三会 出席

台湾経済界トップ 100 社が集う三三会に出席。三三会とは日本でいう日本経団連。三三会朱萍秘書長、三三会企業交流会林伯豊理事長ほか 8 名の役員と意見交換。先進的な IT 企業や半導体関連メーカーや物流や商社まで台湾国内の幅広い産業のトップが集う会にて、総会時に長崎県訪問団として紹介していただいた。また、千葉県からは熊谷知事自らトップセールスに出席されており、素晴らしいスピーチをなさったことは印象深い。長崎県も見習うこと多々である。

#### 5、まとめ

今回は、台湾と長崎県における関係性の強化、今後の双方向の人的交流・物流の可能性の調査を主眼としての視察研修であった。元来から、親日で知られる台湾側の対応は非常に温かく迎えていただいた。特に、台湾の要人から見た長崎県は非常に好印象であり、将来的に友好を深め、交流を深めていくことが県益に繋がると感じた。また、そのためには知事のトップセールスを含め、あらゆるチャンネルを駆使して、友好関係を維持、発展させていくことの重要性をあらためて認識した。今回の訪台で明らかになった課題等を検証し、具体的に今後の県政推進に役立たせていくことが重要になる。